

■ 平成28年度 区政懇談会（紫竹中央）

日 時：平成28年5月14日（土）

10:00～11:30

会 場：紫竹集会所



（発言）

県警宿舎の撤去後の跡地が民間に払い下げられたが、1か所だけ更地になっているところがある。昔、紫竹4丁目には、紫竹駅前公園という公園があったが、民間からの借地だったため、契約が解消され、現在は公園が皆無である。その跡地を市で購入し、洪水対策のためにかさ上げした防災公園を整備いただきたい。

（回答）

県に借地について相談したが、基本的には売却する方針ということであった。市で買い上げることは難しい。公園の整備は無償借地した上で、市で整備するという形になる。ほかに貸しただけのような土地があれば情報をいただきたい。

（発言）

栗の木バイパスの高架工事をやっているが、高架が建つとその両端は片側通行になる。工事後は、上りのバス停が高架を隔てた鑑のほうになる。市道網川原線が通る計画なので、そこに横断歩道をつけてもらい、反対側に紫竹のバス停をつけてもらいたい。

（回答）

横断歩道は設置する計画があると新潟国道事務所に確認した。詳しい説明が必要であれば、国道事務所に説明会をしてもらうのがいいと思う。区が窓口になるので、希望があれば国道事務所と調整する。バス停は、新潟交通に確認したが、まだ決まっていないとのことだった。決まる前にコミ協と区と一緒に要望書を提出したい。

(発言)

紫竹4丁目と3丁目の間の用水路の工事をした際、脇の部分を2メートルほど市が購入し整備した。広くなり通れると思ったら、柵をされてしまった。防災上困るので、市や区と話をして、下水道部からかぎを借りた。幅が広がったので、何かあったときに抜ける道になるから、歩道にしていきたい。歩道が不可能なら、**防災倉庫の置き場**にさせてほしい。

(回答)

柵を設置した経緯を確認して、地域の方の役に立つような使い方ができないか、下水道部に確認をし、返事をさせていただく。

→下水道部の管理用地であることから、現状では柵を外すことや防災倉庫を置くことは許可できない。また市道認定不可であることを発言者に伝え、了承された。(平成28年5月26日連絡済)

(発言)

市道東4-48号線と紫竹東明線の交差点ならびに紫竹東明線と市道東4-51号線の交差点は、通勤時間帯は交差点内にも車両が渋滞し、住民の車の出庫に支障をきたしている。これらの交差点に**停止線かセブラゾーン**を設置し、スムーズな往来ができるようにしてほしい。

(回答)

県警に話をし、後ほどお示ししたい。

→東警察署と協議した結果、8月末までに白線(セブラゾーン)を引くことを、平成28年7月20日に発言者に伝えた。

(発言)

区バスの社会実験ルートは、東区役所から越後石山駅までとあるが、途中のルートはどうなっているか。紫竹の人は、越後石山駅はほとんど使わず新潟駅を使い、また区役所にはほとんど行かない。買い物難民がいるので、考えていただきたい。

(回答)

区バスは、区役所と結ぶのが大原則である。平成27年のアンケートでは新潟駅南口に行き

たいとの要望もあったが、まずは越後石山駅西口広場と路線バスの空白地帯を通り、東区役所まで行く路線を通すこととした。これにより、越後石山駅まで行けるようになり、途中で木戸病院も通る。委託業者が決まったので、正式なルートをこれから調整していくが、業者からも途中でスーパーに寄るといった提案をいただいている。

まずは社会実験を突破口に、その後、新潟駅南口や市民病院など、区を超えるルートについても皆様の要望を集めながら、自治協議会などで区全体の公共交通のあり方を検討する。

(発言)

災害時の子どものミルクや、女性が使用できるようなトイレ用のテント、避難用のリアカーなどを収納する物置がほしいが、**自主防災組織活動助成金**の補助対象となるか。

またこの助成金は、防災訓練ではなく勉強会や説明会は対象となるか。今までの自主防災組織は役員がただ名前を連ねているだけであったが、それではだめなのでみんなで勉強会をしようということになった。新潟地震を経験していない若い人は電気、ガスが使えないことが分からないので、そこから話をしようと思っている。自治会が防災意識を高めてから消防団などから講師を呼ぶ予定である。5年間毎年行い、役員を輪番で行うことによって、全員が防災について理解する予定である。

(回答)

災害時の備蓄について、今回の熊本地震でもクローズアップされているが、地域でどこまで用意できるか、区役所などの行政がどのように支援できるかがこれから問題になってくる。防災用具を収納する物置について補助はできるので、置き場所や規模など、あらかじめご相談いただきたい。

また、自主防災活動の助成金は防災訓練に絞っているが、地域での防災意識の向上や知識の習得という点では、外部の講師を含めて、一緒に考えていくことが有効である。特色ある区づくり事業で「わが家の防災力向上」という事業があり、地域の中で意欲的な方々を中心に、外部講師を招いて、地域での防災を皆さんに考えていただくものを今年度から始めていくので、こちらも相談いただきたい。